

# 平成29年度 学校家庭の生活アンケート結果の分析

1. 調査実施日 平成29年度11月29日～12月7日

2. 調査用紙回収率 摂津市立千里丘小学校 児童 304名 (回収率100%)  
保護者 197家庭 (回収率80.4%)

## 3. 調査目的

学校の教育活動が児童生徒の実態や保護者の学校教育に対するニーズ等に対応しているかどうかについて、学校家庭の生活アンケートを実施し、それに基づいて学校教育計画の達成度を点検し、学校教育改善のための方策を明らかにする。

## 4. 調査結果の分析について

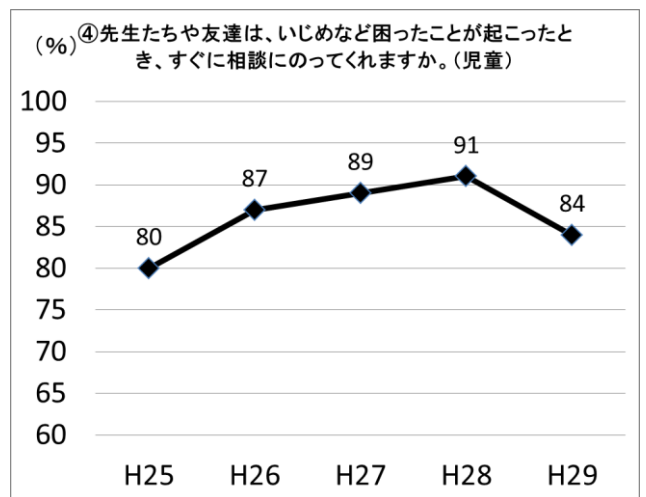
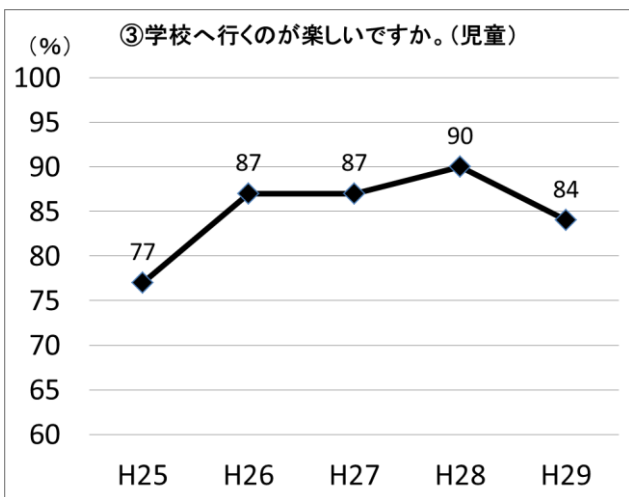
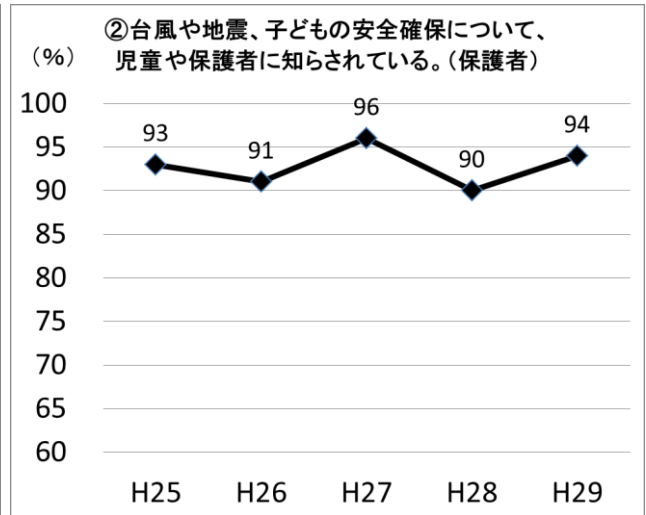
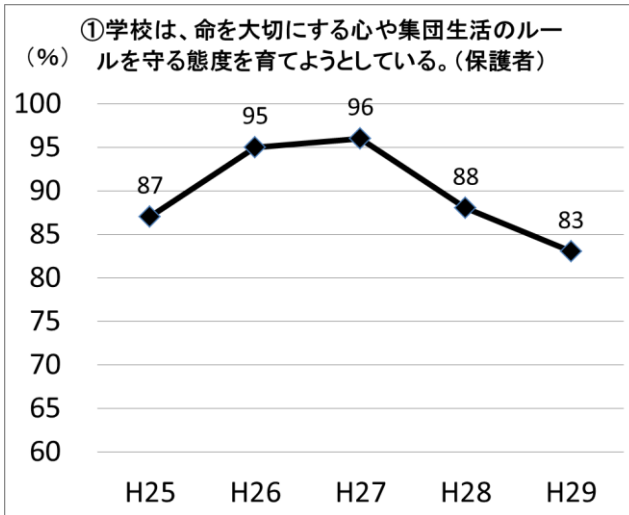
調査結果の全項目については別紙（平成29年度 学校家庭の生活アンケート経年比較 全結果）に示す。「よくあてはまる」「あてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」「まったくあてはまらない」の内、「よくあてはまる」「あてはまる」を「肯定的な回答」ととらえ、その比率の経年比較を実施した。さらに、本調査を次の3つの観点で整理し、その特徴を分析した。

- ◆「安全安心な学校づくり」・・・児童が「守られている」と実感し、安心して学校生活を送ることができているか、保護者が開かれた学校であると実感できているか。
- ◆「学習指導・学習評価」・・・授業づくりの工夫がなされているか、通知表がわかりやすいか。
- ◆「基本的生活習慣」・・・基本的生活習慣が確立されているか。

「安全安心な学校づくり」「学習指導・学習評価」「基本的生活習慣」の3観点について主たるアンケート項目・結果を示す。

## 5. 調査結果の概要について

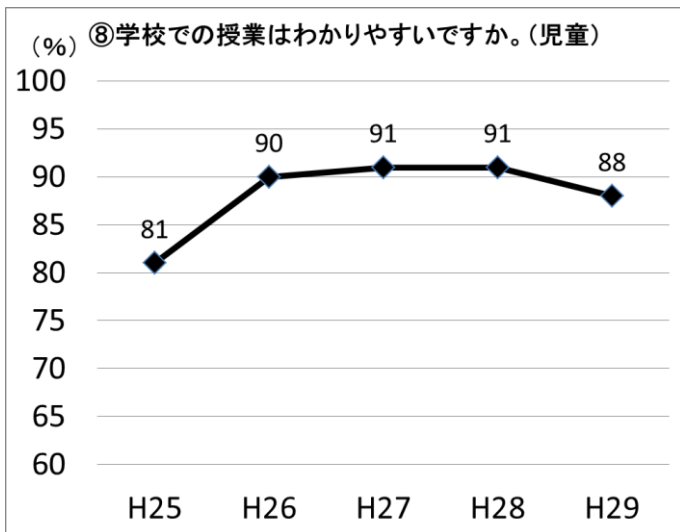
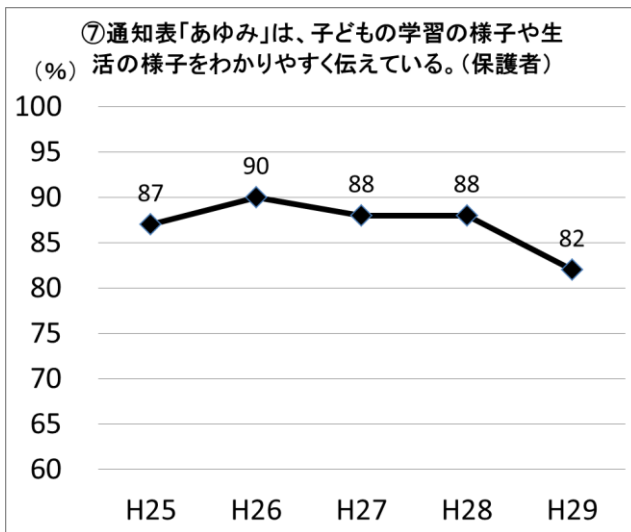
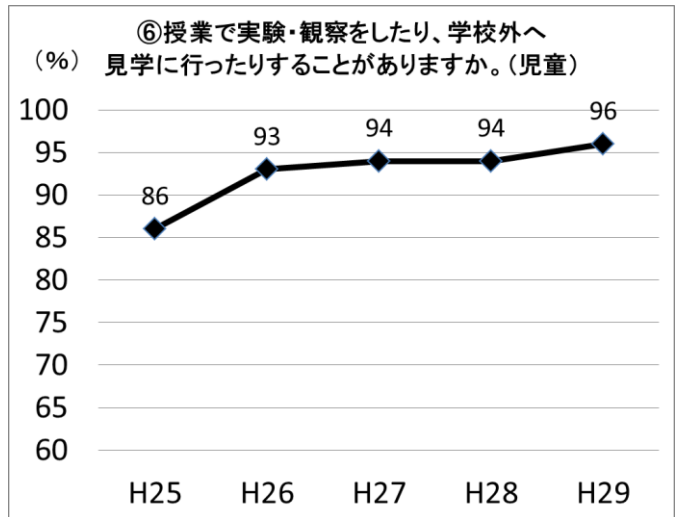
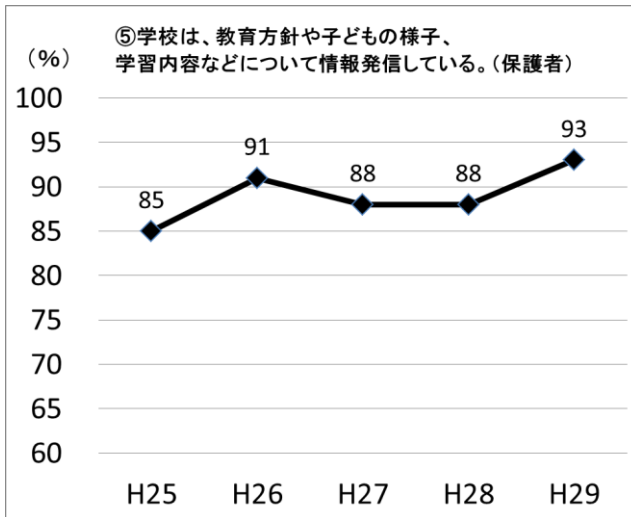
### 【安全安心な学校づくり】



落ち着いた学習環境をつくる取組みとして全児童委員会による「廊下を美しく歩こうキャンペーン」を実施や、朝学習の学習内容を工夫するなどを行った。しかし、グラフ①に示すように「集団生活のルールを守る態度の育成」については下降傾向が見られる。今後も命の大切さや集団生活のルールについては学校組織全体で指導する必要がある。

今年度は風水害や地震等の避難訓練を実践的なものに変更した。また、校内の施設整備についても修繕箇所をホームページに掲載したことや、台風への対応など保護者あてにメールやプリント等で連絡を実施した。その成果はグラフ②に成果として表れている。

グラフ③④について、さらに子どもたち安心できる居場所となる学校づくりを進める必要がある。いじめに対して「いじめを許さない」という強い認識に全教職員が立ち、学校チームとして同じ姿勢で児童への指導にあたる。グラフ④について「質問しやすい雰囲気」「相談にのってもらえる」という児童減少は真摯に受け止め、「安全安心な学校づくり」を引き続き目指す。



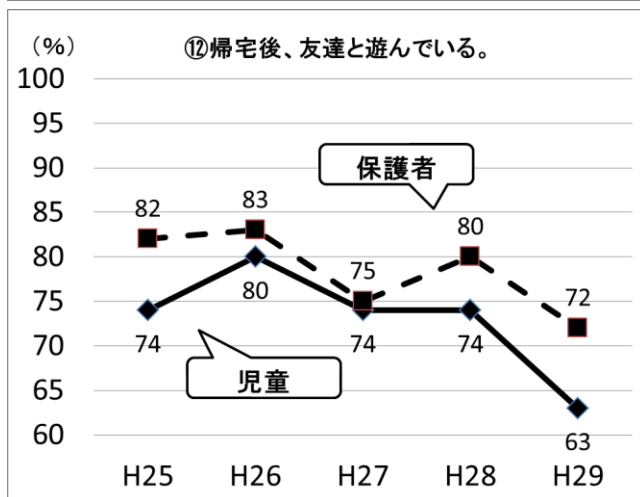
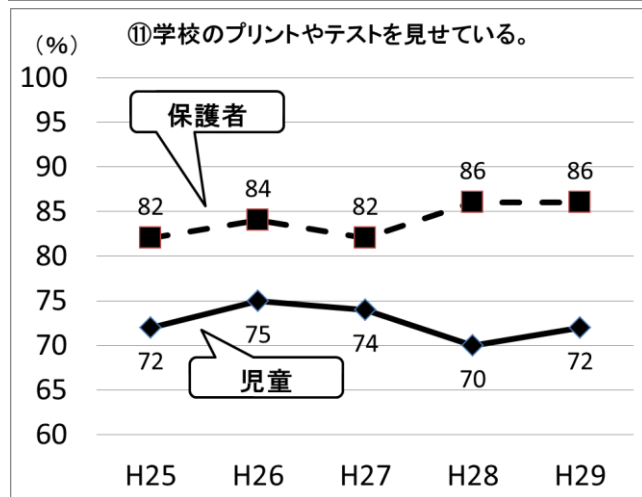
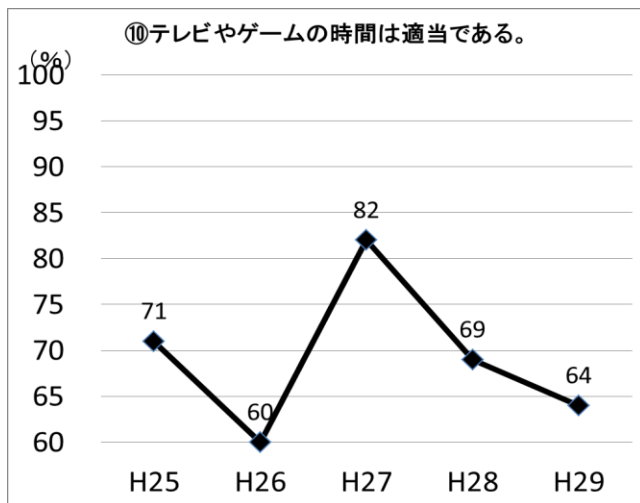
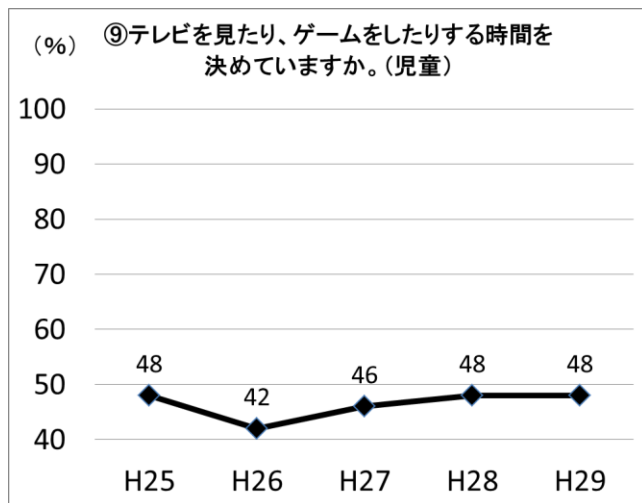
グラフ⑤について、学習活動の内容などをホームページで情報発信したことが成果として表れている。今後は学校の取組みのみならず、学校の経営方針や目指すべき方向性などについても、わかりやすく発信する必要があると考えている。

また、算数の速さの単元で運動場を実際に走って速さについて考えたり、子どもが育てたさつまいものつるでリースを作るなど各学年の様々な教科・領域等で体験的な学習を行った。その成果が上記グラフ⑥に表れていると考えられる。

グラフ⑦については通知表「あゆみ」について、様式等は変更していないが下降傾向が見られる。さらに詳しく、かつ、わかりやすく知りたいという保護者のニーズに応えるべく、次年度以降、通知表「あゆみ」の観点についての説明プリントを作成するなどして、学習や学校生活の振り返りに活用できるよう改善する。

グラフ⑧については授業中わからないことがあった時に質問しやすい雰囲気を作るとともに、学習活動の工夫をさらに進め、わかりやすい授業づくりを目指す。

【基本的生活習慣】



グラフ⑨⑩について、ゲームをして過ごす時間の長さについては平成29年度全国学力学習状況調査においても全国平均を大きく上回っている。(テレビ・ビデオ・DVDを1日に3時間以上見ている児童 本校46.2% 全国32%、ゲーム(スマートフォンを含む)を1日に3時間以上している児童 本校23.1% 全国17.6%)

グラフ⑪「学校のプリントやテストを見せているかどうか」については、児童がプリントやテストを保護者が考えているほど見せていない可能性があることがわかった。

グラフ⑫「帰宅後、友達と遊んでいる」児童は本校では減少していることがわかる。近年の英語教育や習い事の増加により帰宅後に友達と遊ぶことが減少していると考えられる。